

# 熊本市 感染症発生動向調査 速報



## ●A群溶血性連鎖球菌咽頭炎に引き続き注意しましょう

今週は少し減少しましたが、例年に比べるとまだまだ多い状況です、引き続き注意しましょう。

## ●水痘に注意しましょう

水痘-帯状疱疹ウイルス(varicella zoster virus;VZV)による感染症で「みずぼうそう」として知られている病気です。予防には予防接種が有効です。2014年10月1日から、水痘ワクチンが定期接種となりました。定期接種が始まる以前の年齢では集団感染の可能性もあるので注意が必要です。

### ◆どんな病気？

- ・症状………全身性のかゆみを伴う発疹と、38℃前後の発熱が主な症状です。発疹は、まず赤い斑点ができ(紅斑)、次第に盛り上がって(丘疹)、水ぶくれになり(水疱)、かさぶた(痂皮)になります。これらの紅斑、丘疹、水疱、痂皮のそれぞれの段階の発疹が混在しているのが特徴です。通常、軽症で終生免疫(一度かかったら生涯その感染症にはかからない)を得ることが多いですが、ウイルスは治ったあとも体の中に潜伏していて、後に「帯状疱疹」として再発することがあります。
- ・潜伏期間…2～3週間程度
- ・感染経路…患者のくしゃみなどのしぶきを吸い込むことによる飛沫感染、あるいは水疱の中に含まれるウイルスに接触することにより感染します。すべての発疹がかさぶたになるまで感染力があります。
- ・流行期……一年中みられますが、12月～7月に多い傾向があります。2～8歳に多くみられます。



### ◆かかったらどうすればいいの？

- ・治療は塗り薬が中心になります。重症の場合もしくは重症化の防止として、抗ウイルス剤を使用することもあります。
- ・熱が高いときは特に、水分をしっかりとらせ脱水にならぬように気をつけましょう。発疹が出たあとも高熱が続いたり、ぐったりしているときは早めに医療機関を受診しましょう。
- ・水痘は、学校保健安全法により第二種の感染症に指定されており、登校基準は原則としては、すべての発疹が痂皮(かさぶた)化するまで出席停止とされています。(病状により、医師が感染のおそれがないと認めたときを除く)

期 間		平成29年 23週		平成29年 24週	
		6/5～6/11		6/12～6/18(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		1	0.04	0	0.00
RSウイルス感染症		0	0.00	2	0.13
咽頭結膜熱(プール熱)		19	1.19	13	0.81
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		98	6.13	83	5.19
感染性胃腸炎		102	6.38	97	6.06
水痘(みずぼうそう)		8	0.50	12	0.75
手足口病		67	4.19	64	4.00
伝染性紅斑(りんご病)		1	0.06	2	0.13
突発性発しん		18	1.13	15	0.94
百日咳		0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ		8	0.50	13	0.81
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		5	0.31	4	0.25
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		9	1.80	9	1.80
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		2	0.40	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		1	0.20	2	0.40
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		4	0.80	6	1.20